

トラック運送事業の 長時間労働改善に向けた パイロット事業

0.対象集団の概要

- ▶ 対象集団は平成28年度パイロット事業に参画いただいた同対象集団。
- ▶ 本事業の対象荷種は「野菜」、運行は「青森県～東京都市場内」となっており、繁忙期の多い日には1日3,4便、閑散期は週1,2便の運行がある。

区分	名称	所在地	主な荷の種類	備考
発荷主	十和田おいらせ 農業協同組合 (以降「JA」)	〒034-0081 青森県十和田市西十三番町4-28	農畜産物	組合員：11,932名
運送事業者	中長運送(株)	〒039-2504 青森県上北郡七戸町寒水39-2	農産物・冷凍食品・家電・その他日用品	保有車両数：30台 ドライバー：30名 平均年齢：49歳
着荷主	東京都市場内の青 果卸売業者	—	—	—
選定理由等	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県の主要産業である野菜類等の輸送に係る集団を対象 ・着荷主は首都圏等であり、長距離輸送に係る拘束時間の実態が見られる ・平成28年度の事業では「閑散期」に実証実験を行ったことから、平成29年度の事業では「繁忙期」に実証実験を行うことにより、昨年度以上の効果に期待 			
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・青森労働局労働基準部監督課、青森運輸支局輸送・監査部門、(公社)青森県トラック協会 			

※ 平成29年度の対象集団に新たな運送事業者を追加することを検討したが、対象荷主が同じであり、かつ自社の運行がある事業者の特定には至らなかった。

1.平成29年度 事前調査の実施

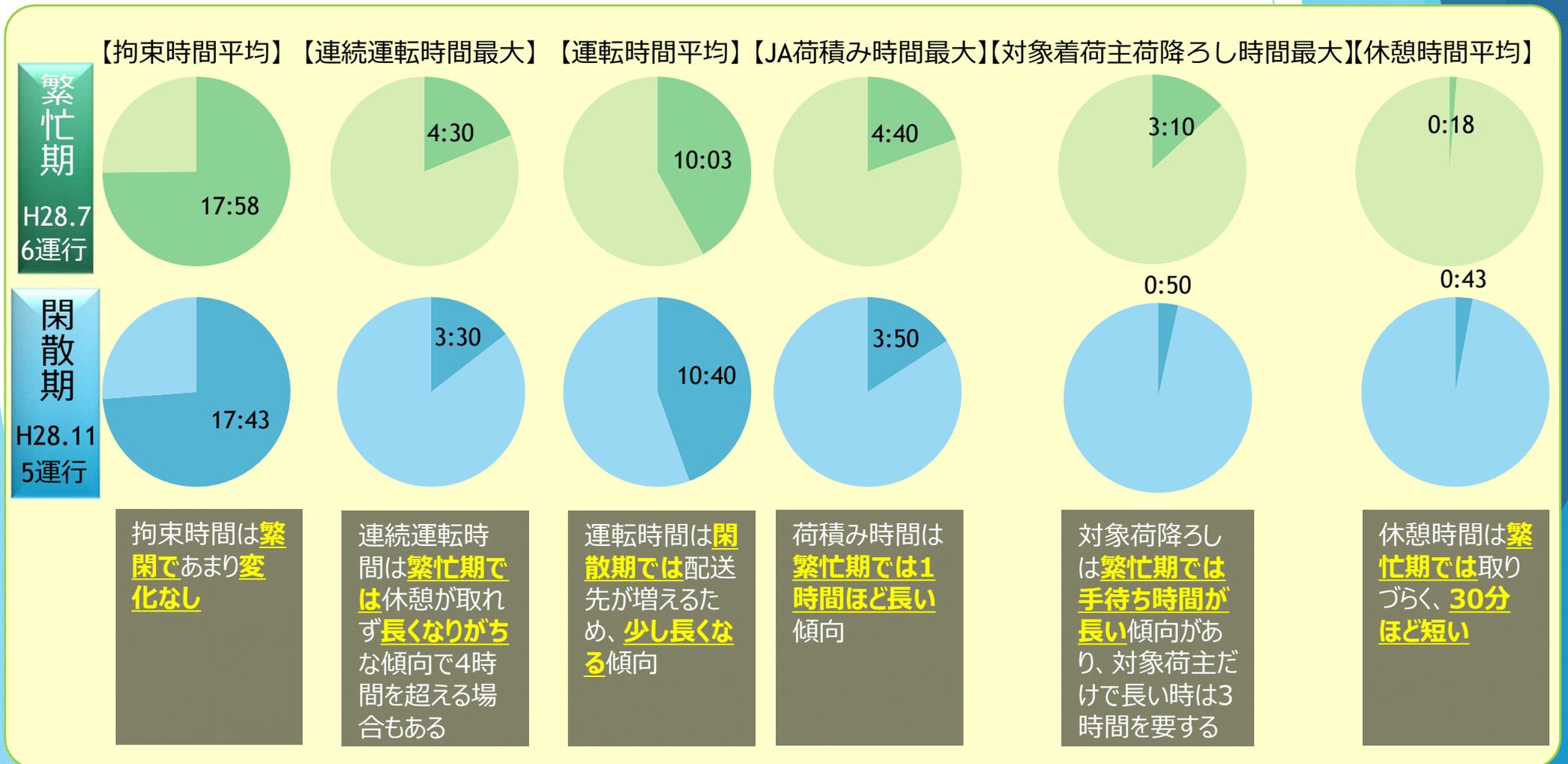
- ▶ 自己診断チェックシート（事前調査票）の配布・回収
 - ▶ 運送事業者（ドライバー労働時間実態調査）、着荷主（取引環境調査）
 - ▶ 調査日：H29.6～7月

- ▶ ヒアリング調査等の実施
 - ▶ 昨年度との相違、課題等を把握
 - ▶ 中長運送：H29.6.19、H29.7.11
 - ▶ JA：H29.7.11
 - ▶ 東京都市場内の青果卸売業者：H29.7.14
 - ▶ 市場現地確認：H29.7.13

2. 事前調査結果

▶ ドライバー労働時間実態調査

▶ 対象運行の1日目の運行における繁忙期別による労働時間の比較



※円グラフは24時間を示している

2. 事前調査結果

▶ 対象市場の混雑状況

- ▶ 対象とする荷役は、市場内に入ってから複数の降ろし箇所があり、その都度、荷降ろしをし検品を受ける。また、市場内に入れないトラックはその場で荷役を開始する場合もある。

○市場内

市場の入り口までトラックが連なっている。



○市場外

市場内の混雑により中に入れないトラックの様子。



○市場外の外周（ループ道路）

多くのトラックが駐車しており、その場で荷役するトラックもある。



3. 対象集団の課題に対する進展等

- ▶ 昨年度の課題に対し、今年度の進展状況等は次の通り。
- ▶ 各対象集団ともに、1年で大きな変化が見られた。

	平成28年度「課題」	平成29年度「進展状況」
発荷主 (JA)	<ul style="list-style-type: none"> ・1運行で配送先を複数としているが、今の体制では配送先を少なくすることは困難 ・支社が多く煩雑になっている ・人材不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・1運行の配送先削減に配慮 ・3ヶ年計画で3箇所程度に支社数の統合を検討 ・繁忙期は人材派遣やシルバー人材センターを利用 ●5月にJA主催で運送事業者との意見交換会を開催。今後も開催予定。
運送事業者 (中長運送(株))	<ul style="list-style-type: none"> ・荷積みに時間を要する箇所が存在 ・配送先数が多い ・市場に着いてからの手待ち時間の長さ ・検品待ち ・人材不足 ・距離的な問題による拘束時間の長さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・支社で荷積みの区分け・整理の改善 ・JAの配慮による配送先数の削減 ●着荷主より今後の効果検証も踏まえ、「着時間の連絡」について提案 ●着荷主側で夜間対応の実務を行わない専任の責任者を配置 ・東京便ドライバーが2名増員し計画的な運行の確保
着荷主 (東京都市場内の 青果卸売業者)	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフトの台数不足 ・検品人員不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフト増車予定 ●市場内における荷降ろし箇所の検討

●：今年度の新たな取り組み

4.パイロット事業

実証実験期間：平成29年7月～9月

▶ 実証実験内容：

実証実験の内容は昨年度と同様に「朝積み時間の前倒し」「配達先別の荷積みの区分け・整理」「1運行の荷受け先削減」の3本とする。

▶ 対象期間：

運行本数が最も多くなる7月にポイントで行い、以降8月中旬～9月中旬で行うこととする。

▶ 検討事項：

- ▶ 実証実験のために、従業員の早出が発生した場合は該当日のみ早帰りする等の検討。
- ▶ 同様の運行で異なるドライバーでの実証実験が可能かどうか検討。
- ▶ 対象ドライバーが「市場に着く時間の連絡」をする場所（駐車可能箇所）の検討。

JA

中長

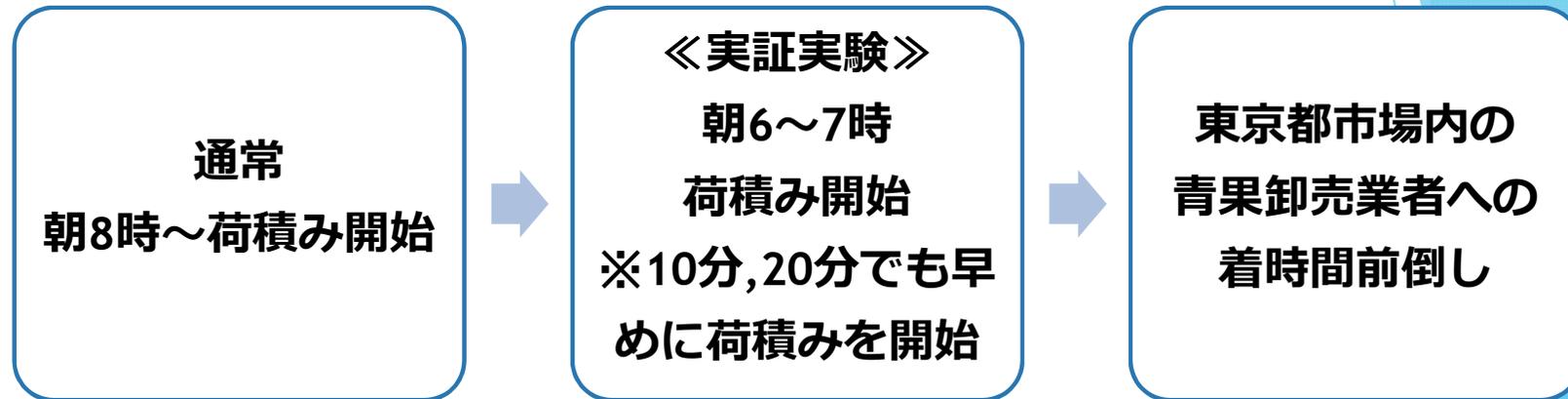
中長



着荷主側でドライバーの到着時間がわかることにより、受け入れ態勢を調整することができるため、荷役の効率化が期待される。

4.パイロット事業内容

(1)朝積み時間の前倒し



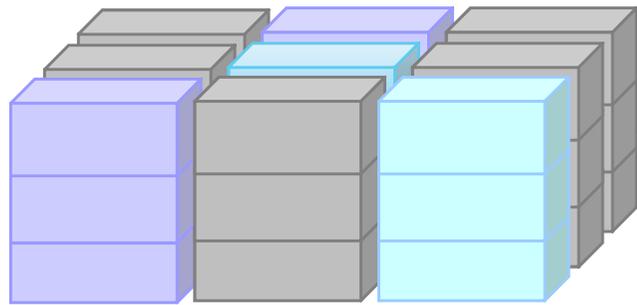
		対象運行前日	対象運行当日
発荷主 (JA)	<p>通常運行</p> <p>↑ NO</p> <p>朝積み前倒し可否検討</p> <p>→ 朝積み前倒し運行連絡</p>	<p>→ 該当集荷倉庫解錠者決定</p>	
運送事業者 (中長運送株)	<p>↓ 協議</p>	<p>→ ドライバー, 荷役人員確保, 運行計画</p>	<p>6-7時荷積み開始</p> <p>→ 運行</p>
着荷主 (東京都市場内の青果卸売業者)	<p>→ 発注依頼</p>		<p>→ 検品</p>

4.パイロット事業内容

(2)配送先別の荷積み分け・整理

現状

配送先ごとの仕分けができていない積み荷、または積み荷されていても、どの山が該当するか不明な積み荷が存在



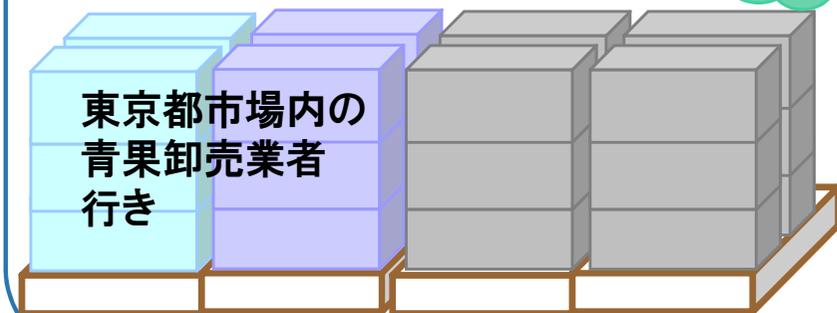
《実証実験》

配送先ごとに積み荷を仕分けして、「配送先」を明確化

JA

青果品がどの倉庫にあるか不明なものがないか荷役前に確認

中長



4.パイロット事業内容

(3)1運行の荷受け先削減

現状

複数の荷受け先に荷降ろしをしているため、その都度、荷受け先の手待ちや荷役に時間を要している。

JA荷積み

荷受け先1：〇〇青果

荷受け先2：〇〇市場

荷受け先3：東京都市場内の青果卸売業者

荷受け先4：川崎〇〇センター

※特に繁忙期は1箇所荷受け先が削減されるだけで拘束時間の大幅な短縮が見込まれる。



《実証実験》

1運行で2箇所程度の荷受け先とする。

JA荷積み

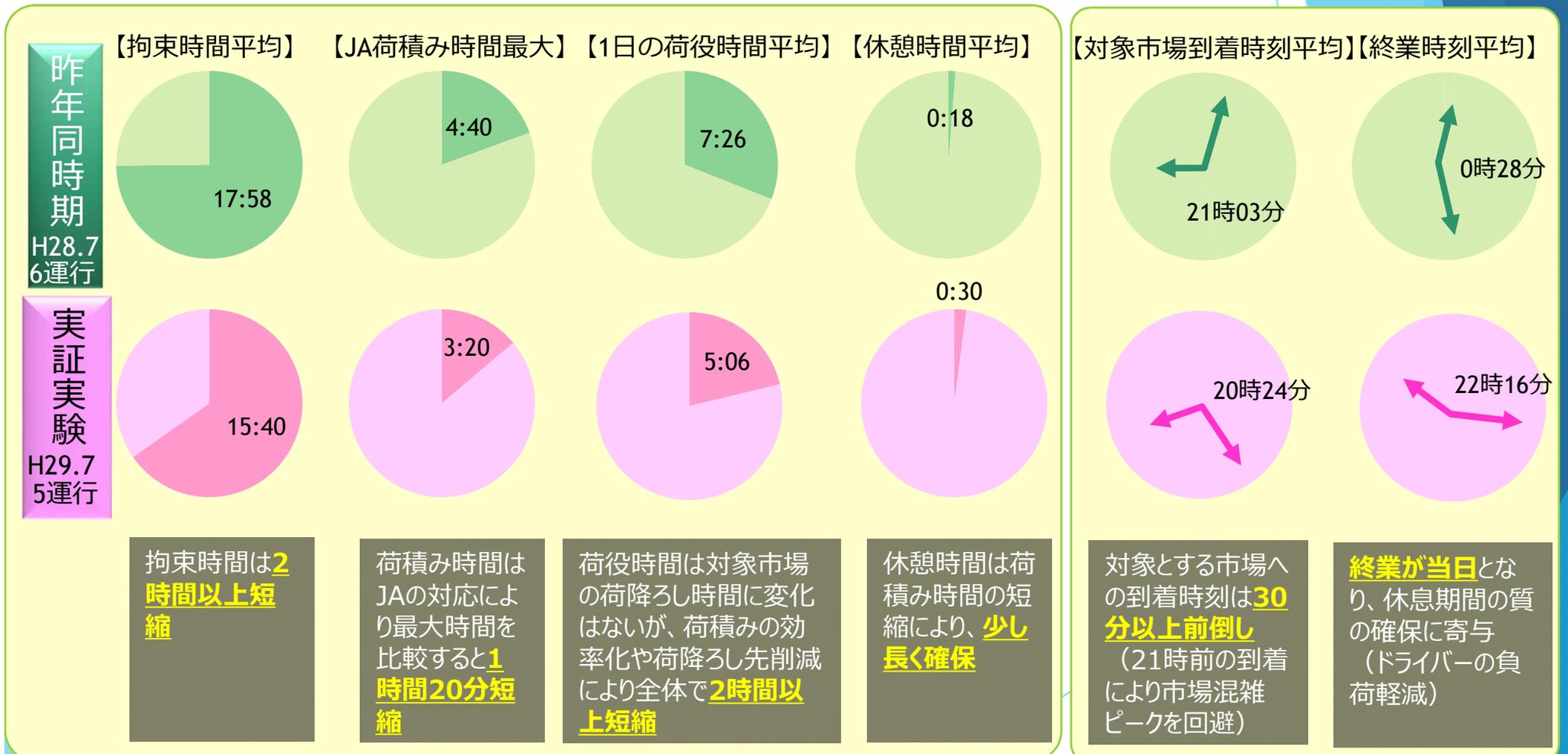
荷受け先1：〇〇市場

荷受け先2：東京都市場内の青果卸売業者

※東京都市場内の青果卸売業者の荷役終了後、休息に入るイメージ。

5.パイロット事業結果（7月・速報）

- ▶ 7月に行われた実証実験は5運行。昨年同時期と比較すると、以下のような結果となった。



※円グラフは24時間を示している

※円は時計を示している

6.今年度のスケジュール（案）

